

試聴会・訪問記掲載

ESOTERIC FESTIVAL LIVE ONLINE 報告 (2020.11.28)

1. はじめに

11月28日(土)14時より、ESOTERIC FESTIVAL LIVE ONLINE をYouTubeにてライブ配信するというアナウンスがありました。また、予告動画の配信もありました。

<https://www.phileweb.com/news/audio/202011/17/22082.html>

<https://www.esoteric.jp/jp/support/news/178>

https://www.youtube.com/watch?v=QB1H_DmOKq4

https://topics.smt.docomo.ne.jp/article/phileweb/trend/phileweb-news_audio_22071

<https://www.youtube.com/watch?v=xHhG2vfwgNA&feature=youtu.be>



ESOTERIC FESTIVAL LIVE ONLINE



2. ESOTERIC FESTIVAL LIVE ONLINE の概要

ESOTERIC のサイトのアナウンスは以下のとおりです。

「今年発売いたしました新製品を、オーディオ評論家の鈴木裕先生をお招きしてご紹介をいたします。例年秋に Tokyo International Audio Show が開催されておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。製品の魅力をお客様にお伝えする場がなかなか設けられない状況ですが、この度初の試みとして YouTube ライブを使って、皆様に ESOTERIC の新製品の魅力をお伝えします。また、放送中に特別なプレゼント企画もご用意しております。皆様ぜひご覧ください。

【日時】

2020年11月28日（土）14時より1時間程度

【ゲスト】

鈴木裕先生（オーディオ評論家）

【試聴方法】

下記 URL よりご覧ください。

https://youtu.be/QBIH_DmOKq4 」

【紹介予定製品】



Grandioso C1X



K-01XD



K-03XD



N-01XD



Prime Signature



Tannoy Platinum B6



Tannoy Platinum F6





3. ESOTERIC FESTIVAL LIVE ONLINE の経過

所要時間は予告では1時間程度という予告でしたが、2時間に及ぶものでした。製品の紹介は、下記について行われましたが、特にC1XとK-03XDについては、内部や部品に至るまで詳細な説明がありました。

C1X

N-01XD

K-03XD

VPI Prime Signature

Tannoy Platinum Series

Tannoy Legacy Series

二人の司会者によって **ESOTERIC** の設計思想や技術的な背景、部品メーカーとのコラボレーションなどの詳細な説明がありました。C1X は電流伝送、ボリュームに半導体のアッテネーター採用などの新技术が盛り込まれています。また、**Prime Signature** は再生中にVTAの調整ができるメリットがあるそうです。

音出しは、下記のような曲で、すべてデジタルソースであり、VPIのアナログプレイヤーによるアナログの再生はありませんでしたし、**Platinum Series** の音も聴けませんでした。スピーカーはTannoyのカンタベリーです。

C1X では前作モデルのC1との比較との比較でオルガン曲がかかりました。

その他、MQA-CDのロック調の曲、ギターと琴や笛とのトリオ、ブラームスの歌曲のヴァイオリン、寺島レコードのJazzなどがかかりました。音質に関する印象は次のとおりです。

オルガン曲

地元のホールで聴くオルガンの生の音とかけ離れている。C1XとC1との区別がつきにくい。

MQA-CD のロック

MQAらしさの特徴が分からない。

ギターと琴や笛とのトリオ

琴の音が地元の伝統音楽祭で聴く生の音とかけ離れている。笛が、横笛か尺八かフルートか区別が付きにくい。

ブラームスの歌曲

ヴァイオリンの音がメタリック、ピアノも生の音とかけ離れている。

寺島レコードの Jazz

やはりオーディオの音、ピアノが生の音とかけ離れている。

4. まとめ

途中音声の途切れ等もありましたが、ESTERIC の設計思想や技術的な背景について熱意ある懇切な解説が行われました。

音質については、YouTube 配信や収録機器の問題があるのかもしれませんが、技術と音質の関連性が今一つ理解しがたいところがありました。また、選曲が司会者の好みに依り過ぎて、音質の判断がしにくいところがありました。なお、現在、Tannoy3 機種をいずれも真空管アンプで駆動している音に慣れており、そういったことから、ESTERIC の試聴会においても Tannoy らしからぬ音に違和感を覚えることがあります。

以上